

令和５年度全国学力・学習状況調査の目的や実施内容

本調査は、文部科学省が学校の設置者（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

- 調査の目的
- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
 - ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象

国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学・英語）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

時間割

◎小学校

１時限目	２時限目	
国語（４５分）	算数（４５分）	児童質問紙（２０～４０分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、２時間目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施）

１時限目	２時限目	３時限目	
国語（５０分）	数学（５０分）	英語（５０分）	生徒質問紙（２０～４５分程度）

令和5年度全国学力・学習状況調査学力結果

※ 全国平均正答率等との比較

【小学校】

	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	ほぼ同じ	〔話すこと・聞くこと〕 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、自分の考えをまとめること	〔読むこと〕 段落の中心語句等を用いて見出しをつけること
算数	ほぼ同じ	〔データの活用〕 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述すること	〔割合〕 百分率で表された割合について理解していること

【中学校】

	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	やや低い	〔読むこと〕 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること	〔書くこと〕 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと
数学	やや低い	〔関数〕 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること	〔データの活用〕 累積度数の意味を理解していること
英語	やや低い	〔読むこと〕 ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	〔話すこと〕 日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けていること

■ 課題となる問題「割合」(小学校算数)

(1) 30 %について考えます。割合が30 %になるものを、下の ア から オ までの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 100人をもとにした0.3人の割合

イ 100人をもとにした3人の割合

ウ 100人をもとにした30人の割合

エ 10人をもとにした3人の割合

オ 30人をもとにした1人の割合

■ 課題となる問題「一次関数」(中学校数学)

- 5 ある市の中学生の水泳大会における女子50 m自由形に出場した40人の記録を調べました。調べた結果を、次の累積度数を含めた度数分布表に整理します。

女子50 m自由形の記録

階級(秒)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満		
27.00 ~ 28.00	3	
28.00 ~ 29.00	2	
29.00 ~ 30.00	4	ア
30.00 ~ 31.00	11	
31.00 ~ 32.00	8	
32.00 ~ 33.00	6	
33.00 ~ 34.00	3	
34.00 ~ 35.00	3	
合計	40	

女子50 m自由形の記録の には最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数が入ります。 に入る値を求めなさい。

■ 課題となる問題「話すこと」(中学校英語)

R5 中学校・英語 「話すこと」 スクリプト

※解答の進め方の説明や録音の練習等については省略

「話すこと」調査の問題は5問あります。問題音声流れる回数は、全て1回です。
解答は、全て英語ではっきりと話してください。



大問1 あなたは、オーストラリアからの留学生ソフィアのために動物園へ行く予定をたてました。今日がその当日です。会話が続いていくように、質問に答えたり、あなたの考えを伝えたりしましょう。指示がある場合は、その指示に従って答えましょう。問題は(1)から(4)まであります。解答時間は(1)から(3)が7秒、(4)が20秒です。それでは、始めます。



(1) A baby elephant! How cute! ... I can read some Japanese. Its name is Taro... it's a boy... and, what does this say?

(解答時間 7 秒)



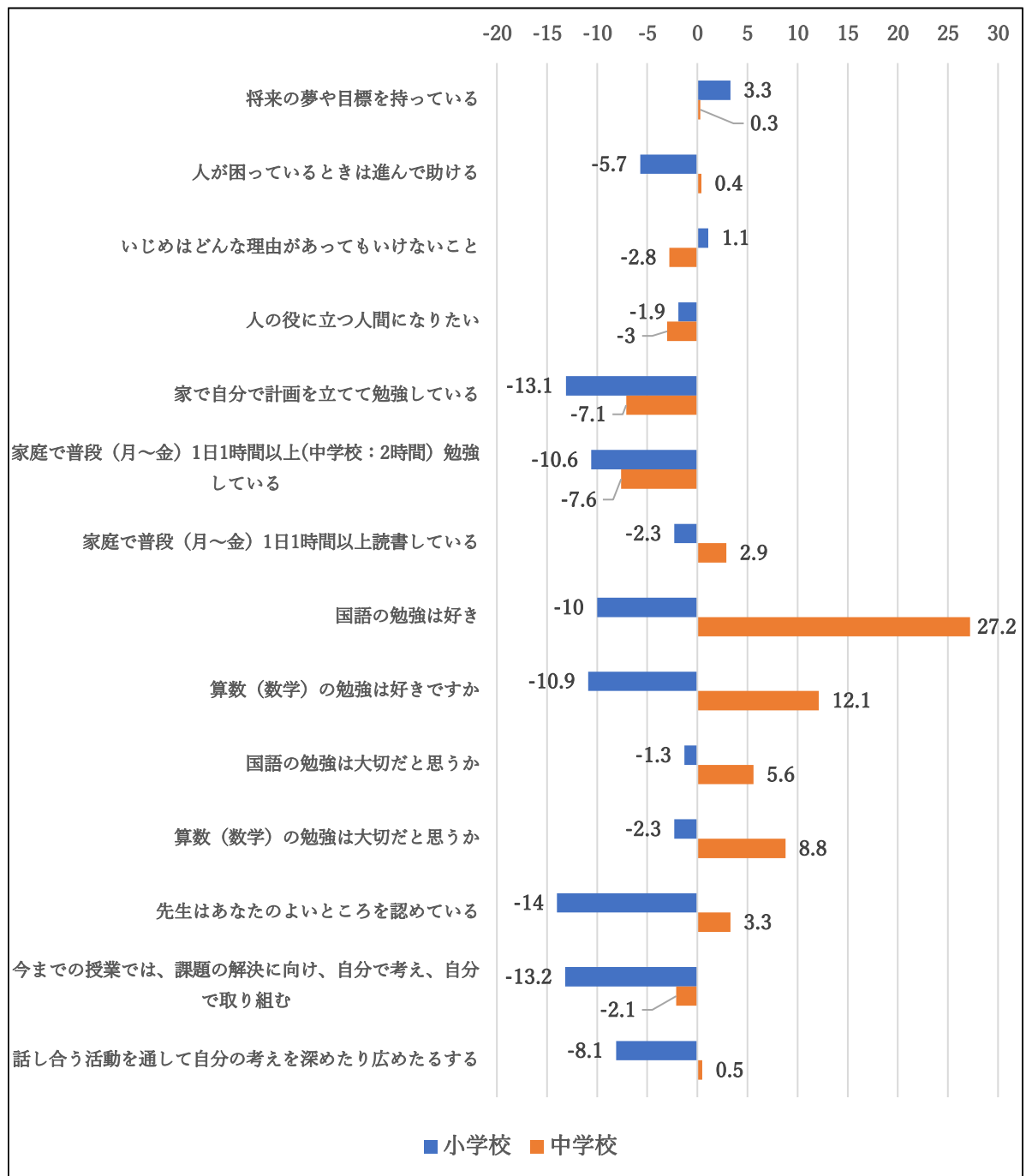
(2) I was so excited to see the baby elephant. So, what are we going to do next?

(解答時間 7 秒)

令和5年度全国学力・学習状況調査質問紙全国平均との比較

※ 全国平均を0として全国の平均パーセントとの差を提示

※ 質問紙69項目程度の中から抜粋



児童生徒質問紙の「自分自身に関すること」の結果において、小学校では全国とほぼ同じか、やや低い項目がある。中学校ではやや高い項目が多くなっている。「学校生活」では、「先生はあなたのことを認めている」の項目で小学校では全国より低い数値で、中学校では、少し高い数値となっている。「学習指導」では、小学校では課題解決に向けて主体的に取り組んだり、自分の考えを深めたり広めたりする機会が全国より少ないことが伺える。中学校では、全国とほぼ同じである。国語と算数（数学）の学習は、児童生徒とも大切だと考えているが、「好き」と回答している割合は、小学校では、全国より低く、中学校では全国より高い数値となっている。「家庭学習の勉強時間」は、小学校・中学校とも全国より低い数値である。

これからの取組

児童生徒質問紙の結果は、小学校では、全国よりやや低い数値の項目が多く、中学校では概ね全国平均と同じです。問題の正答率は、小学校は全国とほぼ同じで、中学校では、全国よりやや低い正答率となりました。「学力の向上」を図るには、児童生徒が楽しく生き生きとした学校生活を送ることと基礎学力の定着は欠かせません。そこで、次のような取組を今後実施していきます。

- ① 小学校と中学校とで補充学習の実施や学習指導の統一化を図る。
また、効果的な ICT の活用により学習意欲を高めたり、個に応じた指導の充実を図ったりする
- ② 学力を向上させる基盤となる児童生徒の健全な育成を図る学級活動や道徳及び学校行事の質を高め、児童生徒間、児童生徒と担任との良好な人間関係を築く
- ③ 学校からの毎日の適度な課題の提示と家庭学習の習慣化を図る学校と保護者との連携を図る

今後も、児童生徒の自己実現に向けて、今までの取組を継続・徹底していきます。